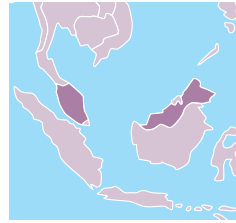


マレーシア国民大学(UKM)
医学部付属病院

アジア マレーシア



国を代表する医学教育機関として、地域医療や高度な研究開発にも貢献

【外部評価者】

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 荒川 潤

レーティング

有効性・インパクト	a	総合評価 A
妥当性	a	
効率性	b	
持続性	a	

本事業の目的

マレーシアの三医科大学で唯一大学病院をもたないUKMにおいて、最新医療機器を導入した医療教育施設を新設することによって、①UKM医学生・卒業生(卒業後教育)の医療技術・知識の改善および看護師の養成、②診療分野での研究開発促進、および③医療サービスの提供をはかり、もって周辺地域の健康の改善に寄与する。

借款契約概要

- 承諾額／実行額：
102億1500万円／82億300万円
- 借款契約調印：1993年9月
- 借款契約条件：金利3.0%、返済25年(うち据置7年)、一般アンタイド
- 貸付完了：2001年1月
- 実施機関名：高等教育省
- WEBページURL：
高等教育省：
http://www.mohe.gov.my/webkpt_v2/index.php?lang=ENG

本事業実施による効果(有効性・インパクト)

医療関係者の養成については、教職員、医学生、卒業医学生、看護婦とも、計画水準での増員がなされている。診療分野での研究促進については、助成研究、国際的研究プロジェクト、論文数、受賞、特許登録等に関して、成果を上げている。医療サービスの提供については、専門外来数が計画水準を達成するとともに、入院稼働率もほぼ計画水準を達成している。

外来・入院患者に対する受益者調査によると、患者の約9割が近隣の住民であり、本病院の提供する医療サービスに対する満足度は一般的に高く、特に「総合病院への容易なアクセス」や「より正確・適切な治療」の達成を評価する受益者が多い。また主要な医学教育機関として、同国が直面している医師不足および医師数の地域間格差の改善にも貢献しているものと考えられる。

本事業の実施により概ね計画どおりの効果発現が見られ、有効性は高い。

妥当性

本事業の実施は、審査時および事後評価時ともに、開発ニーズ、開発政策と十分合致しており、事業実施の妥当性は高い。審査時の第6次国家計画では、恒常的な医師不足と地域間不平等の是正のために本事業を含めた改善措置の実施が予定されていた。また事後評価時でも、「生活の質」に直結する分野として医療保健分野に多額の予算が配分されるとともに、「医療施設の拡張・改良」「地方における健康改善」「医療関連トレーニング」が重視されている。

効率性

本事業は、アウトプット(調達設備・機器)に関する正確な情報が入手困難であるものの、事業費についてはほぼ計画どおりであったと推定される。他方、期間が計画を大幅に上回ったため(計画比270%)、効率性についての評価は中程度と判断される。期間が上回った背景としては、工事期間中の悪天候や追加工事により、マレーシア側予算で実施される病院建設工事のスケジュールが遅延したことが挙げられる。

今後の展望(持続性)

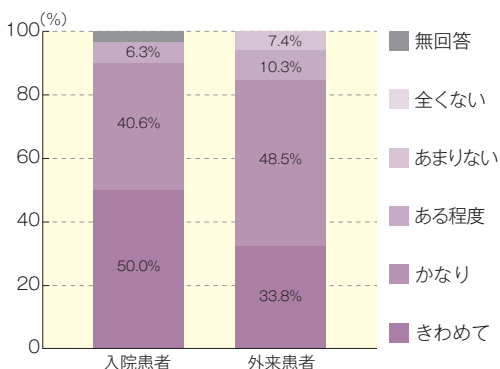
本事業は、実施機関の能力および維持管理体制ともに問題なく、高い持続性が見込まれると評価される。調達機器の維持管理は、おもに外部委託により実施されている。また同病院の財源は、政府の補助金に加えて病院の営業収入もあり、基本的に黒字経営がなされている。

結論と教訓・提言

以上より、本事業の評価は非常に高いといえる。

しかし、事業完了報告が未提出で情報不十分のため、正確な評価が困難であったという問題があった。本事業の教訓として、実施機関とJICAの双方にて文書化、文書管理・保管、データ収集、報告等に関するルールを徹底することが挙げられる。

本病院の医療サービスに対する全般的な満足度



【出典】受益者調査